

KYOTO

GRAPHIE

international  
photography festival



京都国際写真祭

もくじ

|   |       |
|---|-------|
| — KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭とは？   | 3     |
| — ティーチャーズ・キットについて／お問い合わせ先   | 4     |
| — 写真家および写真コレクションを紹介について   |       |
| 1. フランス国立ギメ東洋美術館・写真コレクション Last Samurais, First Photographs<br>— サムライの残像 / フランス国立ギメ東洋美術館 | 5-6   |
| 2. A Natural Order — 自然に向かう人々 / ルーカス・フォーリア  | 7-8   |
| 3. パタゴニア地方のセルクナム族、ヤマナ族、アラカルフ族 / マルティン・グシンデ  | 9-10  |
| 4. Shadowland 1969-2014 ロジャー・バレンの世界 / ロジャー・バレン  | 11-12 |
| 5. A Vision of Jazz : フランシス・ウルフとブルーノート・レコード / フランシス・ウルフ                                 | 13-14 |
| 6. reallyGood, murder / ノ・スンテク  | 15-16 |
| 7. 「Alaska」 presented by CHANEL NEXUS HALL / マルク・リブー                                    | 17-18 |
| 8. Tsugi no yoru e ... / 山谷佑介   | 19-20 |
| 9. All that's not me — 私じゃないわたし / ヨシダ キミコ   | 21-22 |
| 10. 妻有物語 / 榮榮&映里  | 23-24 |
| 11. イマジナリー・クラブ / オリバー・ジーバー  | 25-26 |
| 12. 海女の島 : ルガノ文化博物館コレクション / フォスコ・マライーニ  | 27-28 |
| 13. チェルノブイリ / ルイ・ジャム  | 29-30 |
| 14. コンゴの紳士たち、「サブール」の美学 / ボードワン・ムアンダ   | 31-32 |
| — 授業における活用の提案 / 会場を訪問する前に   | 33    |
| みんなのまわりの TRIBE について考えてみよう！  | 34    |
| 作品を、みんなで見ながら鑑賞しよう！  | 35    |
| 複数の写真で物語を作ってみよう！  | 36    |
|   | 37    |
| — 会場地図  | 38    |
| — スポンサー   |       |

TEACHER'S KIT 2015

KYOTO International Photography Festival

2015.4.18 - 5.10

## KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭とは？

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭は2013年から始まり、今年3回目の開催を迎えます。華やかな春をの京都を舞台に、伝統文化と現代アートの融合をはかる日本では数少ない国際レベルの写真祭です。歴史ある京都らしい建造物（寺院、町家、個人別邸、近現代建築など）を会場に、国内外から選りすぐりの写真家の作品を斬新な展示方法で紹介します。

本年度のテーマは「<sup>トライブ</sup>TRIBE：私はどこにいるのか？」です。「TRIBE」を直訳すると「部族」ですが、ここでは世界の先住民文化や歴史を見つめることから始まり、血や地域といった先天的なつながりだけでなく、個々人の思想やスタイルによるつながりなど、様々な視点からのこのテーマを取り上げ、所属することや変化、適応すること、あるいは共同体や環境について問題提起しながら、世界の多様性の理解と需要を目指します。

新しい「TRIBE」という視点の発見が、誰もが尊く素晴らしいということを再認識させ、また情報過多の現代において自分の立ち位置を見つめ直すきっかけとなるよう、我々独自の視点から選んだ14の写真展を教育現場でも役立たせていただくと幸いです。

開催期間：2015年4月18日（土）—5月10日（日）  
※4月17日（金）のプレビューを含む24日間開催

主催：KYOTOGRAPHIE 実行委員会  
共催：京都市、京都市教育委員会  
認定：公益社団法人企業メセナ協議会

## ティーチャーズ・キットについて

このティーチャーズ・キットは、主に教員の皆さんに活用していただくために作成されました。（掲載している情報は、教員の皆さんのみならず、高校生、大学生にとっても展示を鑑賞する上で有益に活用いただけます。）

今年のKYOTOGRAPHIE 国際写真祭（以下、「KG」に省略）では、「TRIBE（部族）」というテーマのもとに集められた写真家たちの作品を、京都市内15の会場で紹介します。作品は、美術的要素のみならず、世界の文化や社会情勢など様々な課題をもって鑑賞することが可能です。授業や部活動など、様々な教育の場面で、教科を横断した多様なアイディアで活用していただくと幸いです。

前半では、今回紹介する写真家、作品のテーマや制作背景などを詳しく紹介します。また、各会場には徒歩圏内の学校もリストアップしているので、限られた時間内での活用も可能です。後半では、KGが皆さんへ提案する、授業におけるいくつかの活用例を用意しました。ご来場いただけても授業内で活用できるアイデアも盛り込んでいます。

教員の皆さんの自由なアイディアでこのティーチャーズ・キットをご活用ください。

### お問い合わせ先

授業での活用、団体によるご来場に関するご相談等、随時受け付けております。

下記の問い合わせ先にお気軽にご連絡ください。

担当：朴 鈴子（パク・リョンジャ）

TEL：075-708-7108

Email：educationinfo@kyotographie.jp



日下部金兵衛 [鎧のサムライ] 1880年代



シュティルフリート・アンド・アンデルセン、駕籠に乗り込む大名、1875年頃



全て ©Guimet National Museum of Asean Arts

# 1 フランス国立ギメ東洋美術館・写真コレクション Last Samurais, First Photographs - サムライの残像

本展では、フランス国立ギメ東洋美術館の写真コレクションの中から、日本のサムライの肖像写真を紹介します。サムライは日本の歴史の中で、千年ものあいだ重要な位置を占めてきましたが、写真技術が発明されてから間もない時期に武士制度が廃止されたため、その姿をとらえた写真資料は非常に貴重なものです。本展では、幕末から明治後期に撮影された約60枚のヴィンテージのオリジナルプリントと4冊のオリ

ジナルアルバムで、初期のサムライの姿を紹介し、また、フランス海軍将校のアポリネール・ル・バが撮影した貴重なアルバムが世界初の公開となります。あわせて、美術ハガキで有名な京都・便利堂が誇るコロタイプ印刷で、複製写真を特別制作し、当フェスティバルで数量限定作品集として展示、販売もします。

## フランス国立ギメ東洋美術館 Musée Guimet



Guimet Building © Photo by dalbera CC-BY-NC, from Wikimedia Commons

1879年に設立したパリのフランス国立ギメ東洋美術館は、実業家であるエミール・ギメがアジア各地を訪れ収集した品々と、1945年にルーヴル美術館の東洋部門のコレクション全体が移されて以来、アジア以外では最大の東洋美術コレクションを誇る。



- ・フランス国立ギメ東洋美術館 (フランス語)  
<http://www.guimet.fr/fr/>
- ・便利堂  
<http://www.benrido.co.jp/index.html>



### ① 虎屋 京都ギャラリー

〒602-0911  
京都市上京区一条通烏丸西入ル虎屋菓寮 京都一条店横  
開館時間 10:00 ~ 17:00 ※本会場は5/31まで開催。  
休館日 なし

最大利用者数 約30名  
徒歩圏内の学校 (1) 上京中学校 (2) 新町小学校 (3) 室町小学校 (4) 同志社女子中学校





## ア ナチュラル オーダー 2 A Natural Order — 自然に向かう人々

本展では、ルーカス・フォーリアの「A Natural Order」シリーズを紹介します。ルーカス・フォーリアは、2006年から2010年までアメリカ南東部を旅しました。5年間かけて彼が撮影したのは、都市生活を捨て、電気や水道を含めた近代的な設備や供給に頼らない、自給自足の生活環境を選んだ人々でした。彼らが都市や町を捨て、自然や荒野での生活を選ぶ理由は、宗教的なものから経済的なものまで様々

ですが、この地域に住む彼らの多くは、ソーラーパネルや車のバッテリーを電源にして日常的にインターネットにもアクセスしているといいます。現代社会を象徴するようなユニークなライフスタイルと、美しい自然風景との対比が印象的です。

ルーカス・フォーリア  
Lucas Foglia



ルーカス・フォーリア ©

1983年、アメリカ生まれ。ニューヨーク州の小さな農場で育ち、ブラウン大学を卒業後、大学院はイエール大学に進み、写真の修士号を修めている。彼の写真は欧米で多く展示され、数々の著名な美術館に収蔵されている。



・ルーカス・フォーリア (英語)  
<http://lucasfoglia.com/>



ゆうひさい こうどうかん  
2 有斐斎 弘道館

〒602-8006  
京都市上京区上長者町東入ル元土御門町524-1  
開館時間 10:00 ~ 17:00  
休館日 4月22日

最大利用者数 約30人  
徒歩圏内の学校 (1) 上京中学校 (2) 新町小学校





### 3 パタゴニア地方のセルクナム族、ヤマナ族、アラカルフ族

マルティン・グシンデは、1918年から1924年、南アメリカ大陸最南端・パタゴニア地方にあるフエゴ諸島（現在のチリとアルゼンチンにまたがる）の原住民、セルクナム族（オナ族）、ヤマナ族（ヤーガン）、アラカルフ族を調査し、数多くの写真に残しました。動物の毛皮をまとい、仮面をかぶり、全身に儀式的な模様を塗りつけた姿は、強烈な印象を与えると同時に、文化や文明のあり方についても暗にほのめかしているといえます。絶滅してしまった原住民をとらえた世界遺産級といえる貴重な資料を是非ご覧ください。展示会場となるのは、建築界のノーベル賞ともいわれる「プリツカー賞」を受賞した坂茂氏が、京都造形芸術大学の学生と共同で手がけるかの有名な「紙管建築」の仮設パヴ

イリオンです（予定）。

**セルクナム族、ヤマナ族、アラカルフ族とは？**  
セルクナム族、ヤマナ族、アラカルフ族とは？彼らの居住地、フエゴ諸島は、南極に最も近く風速 60m/s を超える寒い地域です。それにも関わらず動物性のグリースを全身に塗り寒さをしのぎながらも、裸に近い格好ですごし、極寒の中でも高い体温を維持することを可能にしました。しかしヨーロッパ人が入ってきたことによって免疫のない病原菌に触れ、徐々に絶滅してしまいました。体中に施したペイントは「Hain」という男子成人儀式における悪霊の仮装だそうです。

#### マルティン・グシンデ Martin Gusinde



1886年、ポーランドのブレスラウで生まれる。ドイツの宣教師として、1911年から南米チリに滞在。当初の目的は、宣教師としての教を広めることであったが、現地の暮らしに慣れ親しみ、調査、研究に従事したグシンデは、人類学者としての功績が大きい。1969年に他界。1955、1959年には講演で来日し、南山大学で教授として着任した経験もある。



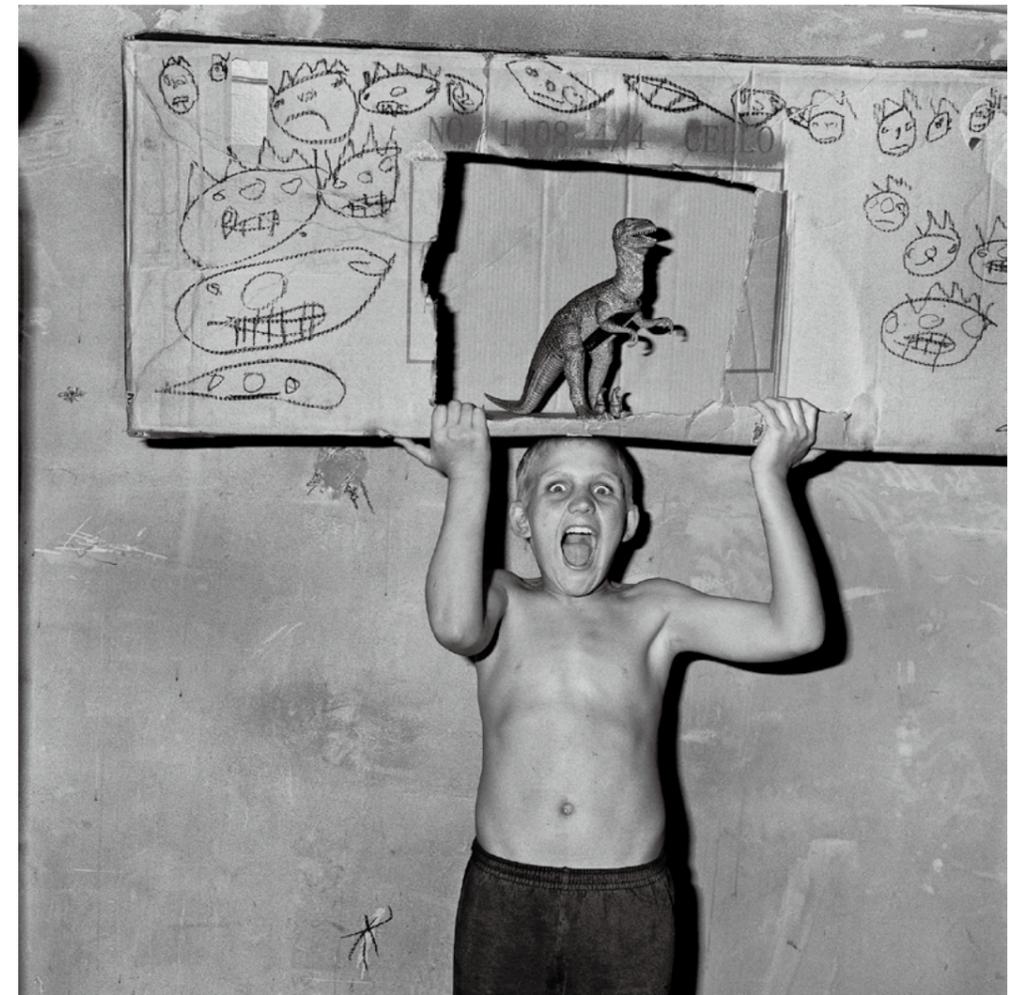
**グシンデの写真集**  
・『The Spirit of the Tierra del Fuego Peoples : Selk'nam, Yamana, Kawésqar Photographs by Martin Gusinde (1918-1924)』

#### 3 坂茂+京都造形大学 ／紙管パビリオンにて (京都市市役所前広場)

〒640-8571  
京都市中京区寺町通御池上ル上本能寺前町488  
開館時間 10:00 ~ 21:00  
休館日 なし

最大利用者数 ※展示会場内はやや狭め、広場を集合場所などに利用可。  
徒歩圏内の学校 (1) 京都御池中学校 (2) 洛風中学校 (3) 高倉小学校 (4) 御所南小学校 (5) 京都文教中学校 (6) 京都文教短期大学付属小学校





## 4 Shadowland 1969-2014 ロジャー・バレンの世界

本展は、ロジャー・バレンの国内初個展です。1970年代から南アフリカに移住した彼は、アパルトヘイト（人種隔離政策）廃止前後の差別の有り様や貧困問題をテーマに写真を撮り続けました。彼の制作スタイルは、ありのままを伝えるドキュメンタリーから、様々な演出をほどこす構成写真へと、ユニークな変遷を遂げていきます。本展では、彼のこれまで制作活動を回顧し、その全体像を紹介します。その中には、6年もの時間を費やして撮りあげたモノクロのシリーズ「Asylum of the bird（鳥の収容所）」もあります。子どもが描いたような動物と人間が共存する異様な光景を、見事な写真に仕上げています。さらに、代表作「OUTLAND」シリーズの映像作品や、新作45点を加えた新版写

真集を世界初披露します。

### ダイアントワード Die Antwoord とコラボレーション

ロジャー・バレンは2012年、南アフリカ共和国・ケープタウン出身のラップグループ「ダイ・アントワード」の曲、「I Fink U Frecky」のプロモーションビデオ作成を協同制作した。それは動画サイト Youtube で約5000万回再生されるほど話題をよんだ。ビデオは、当フェスティバルで紹介する写真作品と同じ場所で撮影された。



- Die Antwood (Youtube)  
[https://www.youtube.com/watch?v=8Uee\\_mcxvrv](https://www.youtube.com/watch?v=8Uee_mcxvrv)
- ロジャー・バレン (英語)  
<http://www.rogerballen.com/>
- Asylum of the Birds の制作、撮影現場やその様子を撮った動画 (英語)  
<http://www.asylumofthebirds.com/>

### ロジャー・バレン Roger Ballen



ロジャー・バレン  
©Marguerite Rossow

1950年、ニューヨーク生まれ。1980年代から30年以上、南アフリカのヨハネスブルグを拠点に活動している。当初は真実を記録するドキュメンタリーの写真家として活動していたが、1990年代より絵画と彫刻的要素を融合させたダークなおとぎ話のような世界を表現するスタイルに転向し注目を集めてきた。21世紀に活躍する写真家たちの中でも、もっとも特異で独特の世界観でイメージを創作している1人といえる。



#### 4a 堀川御池ギャラリー

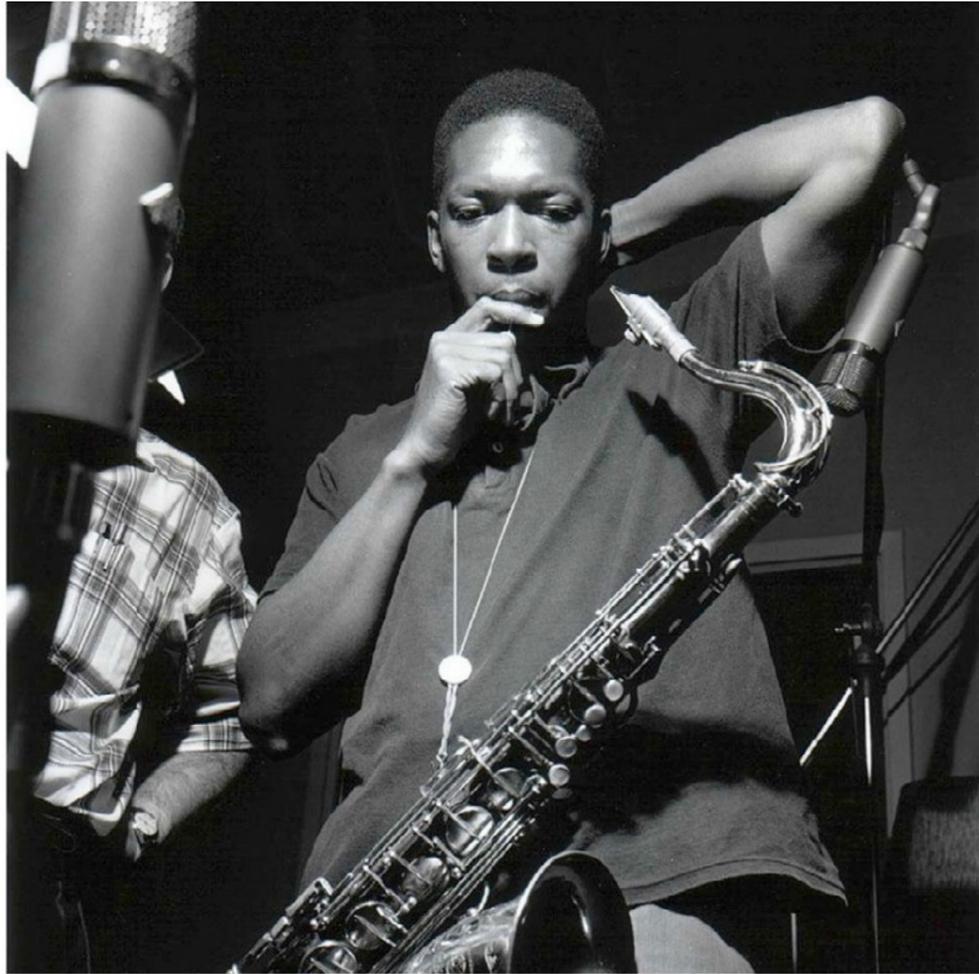
〒604-0052  
京都市中京区押油小路町238-1  
開館時間 11:00 ~ 19:00  
休館日 月曜日 (5月4日をのぞく)

最大利用者数 約30名  
徒歩圏内の学校 (1) 京都御池中学校 (2) 洛風中学校  
(3) 中京中学校 (4) 朱雀第一小学校 (5) 洛中小学校

#### 4b コム デ ギャルソン京都店

〒604-0941  
都府京都市中京区御幸町通御池上る亀屋町378  
開館時間 11:00 ~ 20:00  
休館日 無休





全て © Mosaic Images LLC

## 5 A Vision of Jazz : フランシス・ウルフとブルーノート・レコード

世界最高のジャズ専門レコード会社「ブルーノート・レコード」は、1939年にアメリカ・ニューヨークで創設されました。フランシス・ウルフは、創始者であるアルフレッド・ライオンの右腕として、設立時から運営に携わるとともに、ミュージシャンたちのレコーディング風景を撮影し続けました。彼が撮り続けた写真は、マイケル・カスクーナという人物によって、当時茶封筒の簡易包装だったレコードに彩りを与えました。本展では、レコードのジャケットや広告ポスターなど、フランシス・ウルフが撮影した写真など、全100点を紹介します。

### マイケル・カスクーナについて



マイケル・カスクーナ © Jimmy Katz

マイケル・カスクーナは、「ブルーノート・レコード」が所有する膨大な数の音源と資料の保存に活躍した人物です。当フェスティバル中、トークイベントのために来日します。

### フランシス・ウルフ Francis Wolff



フランシス・ウルフ © Mosaic Images LLC

1907年頃、ベルリンに生まれる。1939年にアメリカに渡り、幼なじみのアルフレッド・ライオンが設立したブルーノート・レコードの運営に参加した。レコーディングやリハーサルの様子を撮り形成した膨大な写真コレクションの中には、伝説的なジャズミュージシャンのイメージが多く、その写真の腕前は大きく評価されている。1971年、アメリカで他界。



・ブルーノート・レコード (英語)  
[www.bluenote.com/](http://www.bluenote.com/)



### しまだい 5 嶋臺ギャラリー

〒604-0844  
京都市中京区御池通東洞院西北角  
開館時間 11:00 ~ 19:00  
休館日 木曜日

最大利用者数 約30名  
徒歩圏内の学校 (1) 京都御池中学校 (2) 洛風中学校  
(3) 高倉小学校 (4) 御所南小学校 (5) 洛央小学校

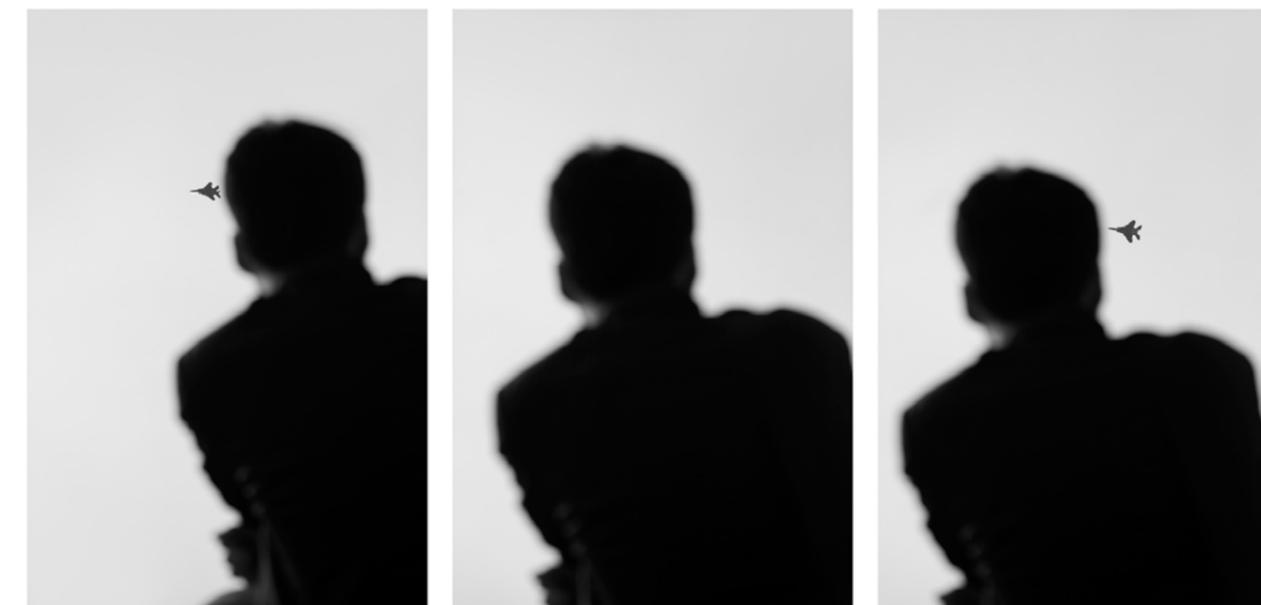




## 6 reallyGood, murder

本展では、ノ・スンテクの「reallyGood, murder」シリーズを紹介します。韓国で一般公開されている軍事演習や武器販売会に訪れる市民の様子を撮影した「reallyGood, murder」シリーズでは、科学の発展や安全保障という名目で兵器が素晴らしいものとされ、さらには軍事ショーが娯楽化されているという現実が、詩的で美しい写真表現で切り取られています。彼

の作品に写る、休日を楽しむ人々と軍事兵器が共存する風景に違和感を覚える人もいるかもしれません。今なお停戦状態の朝鮮半島の軍事環境や、そのような状況に置かれた一般市民をとらえたスンテクの作品は、変化する社会情勢における個人のあり方について問いかけます。ノ・スンテクの日本初の展覧会です。



ノ・スンテク  
Sntag Noh



1971年、ソウル生まれ。昨年韓国美術家賞を受賞するなど近年大きな注目を集め、今韓国でもっとも斬新で卓越した若手写真家のひとりといえる。



・韓国国立現代美術館による「今年の作家賞」ウェブサイト(英語)  
<http://koreaartistprize.org/en/project/noh-sntag/>

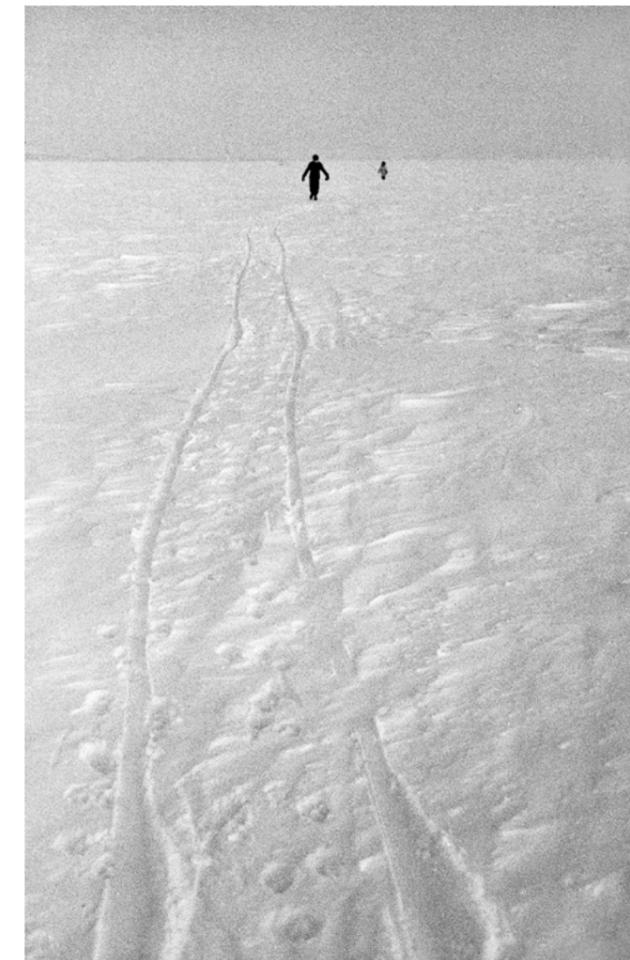


### 6 ギャラリー <sup>すがた</sup>素形

〒604-0021  
京都市中京区室町通二条下ル蛸薬師町 271-1  
開館時間 11:00 ~ 19:00  
休館日 4月27日

最大利用者数 約20名  
徒歩圏内の学校 (1) 京都御池中学校 (2) 洛風中学校  
(3) 高倉小学校 (4) 御所南小学校





全て、マルク・リブー [Alaska] より、1958 © Marc Riboud

## 7 「Alaska」 presented by CHANEL NEXUS HALL

マルク・リブーは激動の20世紀を撮りつづけたフランスを代表する写真家です。1953年にエッフェル塔でペンキを塗る男の写真が、アメリカの写真雑誌『LIFE』誌に掲載されたことで、国際的にその名が知れ渡りました。世界各地で起こったあらゆる瞬間を写真におさめた彼は、報道写真家としても重要な役割を果たしました。ヨーロッパで初めて共産国家・中国を取材し、その後も東南アジアを取材してまわるなど、異国の地での撮影に熱心に取り組みました。CHANEL NEXUS HALL（東京・銀座）から巡回する本展は、マルク・リブーがアラスカで撮影した未発表作品、約50点を展示し話題となった注目の展覧会です。ゴールドラッシュと石油発見との狭間にあたる1950年代、いわば「忘

れ去られた時代」のアラスカで、自然と共存する人間や動物、旅の途上で出会う様々な風景を、鋭い視点と独自の詩情でとらえています。

### 「マグナム・フォト」とは？

1947年に創立した「世界最高の写真家集団」。写真家の意向にかかわらず、写真を部分的に使用されたり、撮影者の情報などが誤って記載されることが多かった当時、写真家の権利と自由を守り、写真を通して社会に主張することを目的に活動する集団として発足した。世界の主要都市に支社を置き国際的に活動している。



シャネル・ネクサス・ホール  
〒104-0061  
東京都中央区銀座3-5-3  
シャネル銀座ビルディング4F  
<http://www.chanel-ginza.com/nexushall>

マルク・リブー  
Marc Riboud



マルク・リブー © Xiao-Quan

1923年、フランス生まれ。1951年からフリーランスの写真家に転身する。1953年に写真家集団「マグナム・フォト」に参加。1950年代のアフリカ独立運動やベトナム戦争など激動の時代に立ち会い、ヨーロッパ人で初めて中国の取材にも成功した、20世紀を代表する報道写真家。1975年にはマグナム・フォトの会長をつとめ、海外記者クラブ賞を2度も受賞した。現在もフランスに在住。



・マルク・リブー  
<http://www.marcriboud.com/>  
・マグナム・フォト東京支社ウェブサイト  
<http://www.magnumphotos.co.jp/index.html>



7 こんだやげんべえくろぐら  
菅田屋源兵衛 黒蔵

〒604-8165  
京都市中京区室町三条下西側菅田屋奥  
開館時間 10:00～18:00  
休館日 4月22日

徒歩圏内の学校 (1) 京都御池中学校 (2) 洛風中学校  
(3) 高倉小学校 (4) 御所南小学校



山谷佑介, Tsugi no yoru e #38, 2010 Courtesy of Yuka Tsuruno Gallery © Yusuke Yamatani



山谷佑介, Tsugi no yoru e #7, 2010 Courtesy of Yuka Tsuruno Gallery © Yusuke Yamatani



## 8 Tsugi no yoru e

本展では、山谷佑介が2013年に自費出版したシリーズ『Tsugino yoru e』を紹介します。展示会場である京町屋「無名舎」の特殊な展示空間で、インスタレーション（設置型の芸術形態）の要素も取り入れ、被写体となった彼の音楽仲間たちの気配がところどころに感じられるような空間を目指します。ニューヨークの国際写真センターのアリスン・ブラッドリーも絶賛する山谷佑介の作風は、東松照明や森山大道といった日本の巨匠からも影響を受けていると思われます。

山谷 佑介  
Yusuke Yamatani



1985年、新潟生まれ。立正大学哲学科を卒業後、外苑スタジオを経て長崎で暮らした。現在は東京をベースに活動する若手写真家である。写真家を志す前はバンド活動に明け暮れていたという。2013年に自費出版した『Tsugino yoru e』には、大阪でともに過ごしたパンクやロックの音楽仲間たちの日常がスナップされている。



・山谷佑介 オフィシャルサイト  
<http://www.yusukeyamatani.com/index.html>



8 むめいしゃ  
無名舎

〒604-8212  
京都市中京区新町通六角下ル六角町 363  
開館時間 10:00 ~ 18:00  
休館日 4月21日、28日

最大利用者数 約20名  
徒歩圏内の学校





## 9 All that's not me – 私じゃないわたし

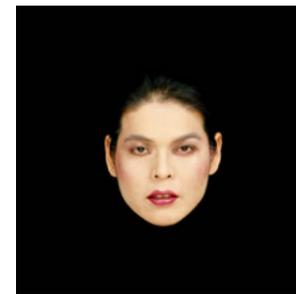
本展では、パリを拠点に活動するヨシダキミコの作品を紹介します。彼女の作品は、全て本人がモデルです。同じサイズに、同じ構図、同じ主題、同じライティング（照明の調整）で撮影され、さらに一切デジタル加工されていないヨシダキミコの写真は、新しい表現方法としてヨーロッパで高く評価されました。「自己を消し去り、他者に返答する」という行為を、写真を通じて実現したヨシダキミコは、作品を通して、どこにも所属することのできない堅苦しい社会を批判しています。ヨシダキミコの日本初の本格的な個展です。また本展では、会場となった呉服商野口家の京友禅を、表具師・宇佐美直八氏が掛け軸に仕立てるなど、京の伝統技術とコラボレーションした特別作品も出品されます。

さらに、通常公開されていない伏見奉行・小堀遠州の屋敷を移築した花洛庵（野口家住宅、京都市指定有形文化財）での展示もみどころです。

### ヨシダキミコの世界には...

ヨシダキミコは作品の中で、自らを構成要素の一部として、絵画的・装飾的な登場をする。世界の著名な芸術家の絵画から想を得た作品、彼女の姿がほとんど見えない作品、中には、子どもたちに人気のアニメキャラクター「ピカチュウ」のお面をかぶった作品などもある。作品の多くはヨシダキミコのウェブサイトから閲覧可能。

ヨシダ キミコ  
Kimiko Yoshida



ヨシダ キミコ ©Kimiko Yoshida

1963年、東京生まれ。1995年、日本人女性としての決められた役割から逃げるような気持ちで、新たな環境をもとめてフランスへ移住。1996年に芸術評論家のジャン＝ミッシェル・リベッツと出会い、ゴッホが数々の有名な作品を描いた土地として知られるアルルにある学校で写真を学ぶ。その後、ル・フレノワのスタジオ・ナショナル・デ・ザール・コンタンポランで経験をつむ。



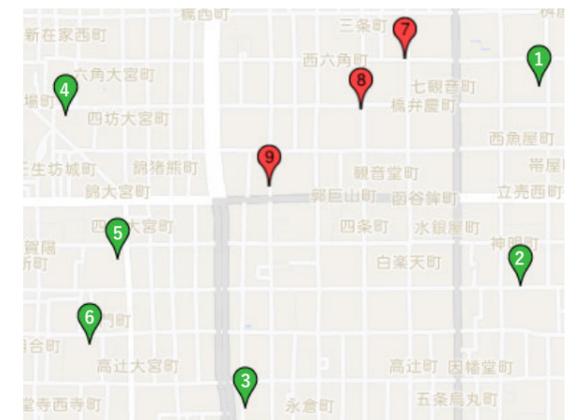
・ヨシダ キミコ オフィシャルサイト (英語)  
<http://www.kimiko.fr/>



### 9 野口家住宅 (花洛庵) からくあん

〒604-8236  
京都市中京区油小路通錦小路下ル藤本町544  
開館時間 10:00 ~ 18:00  
休館日 4月20日、27日、28日

最大利用者数 ※当施設を授業などでの利用はご遠慮ください。  
徒歩圏内の学校 (1) 高倉小学校 (2) 洛央小学校 (3) 醒泉小学校 (4) 洛中小学校 (5) 洛友中学校 (6) 松原中学校





## つまり 10 妻有物語

本展では、榮榮と映里が2012年の「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」で、招待作家として制作した作品を主に紹介します。約2年間にわたって、日本有数の豪雪地帯である新潟県十日町市で暮らしながら、変化していく夫婦や家族の有り様、「生命の環」やその根源ともいえる「水の流れ」に感応していく過程が写真に表現されています。冬の過酷な環境の中で、人々が自然とともに生きてきたこの土地は、彼らがテーマとした「自然と人間との関係」を追求できる土地であったといえるでしょう。会場となる両足院は通常一般公開していない禅院です。本展を訪れる機会に、その書院や茶室、新緑を迎える庭園の美しさもあわせてご覧ください。

**大地の芸術祭  
越後妻有アートトリエンナーレとは**  
里山の暮らしが今も豊かに残るこの地域は、「人間が自然に内包される」を基本理念に、2000年から3年に1度世界中からアート作品を集め展示している。今年（2015年）も開催年で、6回目になる芸術祭である。



- ・大地の芸術祭  
越後妻有アートトリエンナーレ  
<http://www.echigo-tsumari.jp/>
- ・三影堂撮影芸術中心  
(写真専門の民間現代アートセンター)  
<http://en.threeshadows.cn/index.html>



## 榮榮&映里 RongRong & inri



榮榮は、1968年、中国福建省生まれ。映里は、1973年、神奈川県生まれ。1999年に出会い、2000年から「榮榮&映里」として北京で共同制作を開始し、中国における写真表現のけん引役を担ってきた。2007年、北京に中国初となる写真専門の民間現代アートセンター「三影堂撮影芸術中心」を設立。日本でも近年は資生堂ギャラリーでの個展（2011）、越後妻有アートトリエンナーレ（2012）への参加、昨年開催された森美術館「LOVE展」や東京都写真美術館のコレクション展でも注目を集める。



### 10 両足院 (建仁寺内)

〒605-0811  
京都市 東山区大和太路通四条下る4丁目小松町591  
開館時間 10:00 ~ 17:00  
休館日 4月19日、20日、27日、5月7日

最大利用者数 約30人  
徒歩圏内の学校 (1)開晴中学校





## 11 イマジナリー・クラブ

本展では、オリバー・ジーバーが1996年に日本のサブカルチャーを題材に撮ったシリーズ「J\_Sub」、彼の制作スタイルが確立された処女作「SkinsModsTeds」、日本、ドイツ、アメリカなどのクラブを訪れて撮影した「Imaginary Club」、3つのシリーズを併せて紹介します。彼は7年間にわたる世界旅行で、若者たちの個性やアイデンティティーとその形成に深く関わる若者文化へ、次第に関心を寄せていきました。様々なサブカルチャーの場面に存在する若者の姿を、彼独特の規則的なルールのもとで写真におさめていきます。それらをおさめた432ページに及ぶ写真集『Imaginary Club』は彼の集大成といえるでしょう。

### サブカルチャーとは？

カルチャーとは日本語の「文化」を表す英語であるが、文学や音楽、演劇など教養のある人によって支持されたかつての「文化」と比べ、サブカルチャーは主流な文化に対して一部の少数派の人達によって愛好される独特の文化のことを指す。マンガやお笑い、ファッションや音楽のジャンルなどもその範囲として定義できる。

### オリバー・ジーバー Oliver Shiever



オリバー・ジーバー © Katja Stuke

1966年、ドイツ、デュッセルドルフに生まれる。写真家としてだけでなくデザイナーとしても活動、ギャラリーや出版社の運営など、様々な形で写真文化を発信してきた。



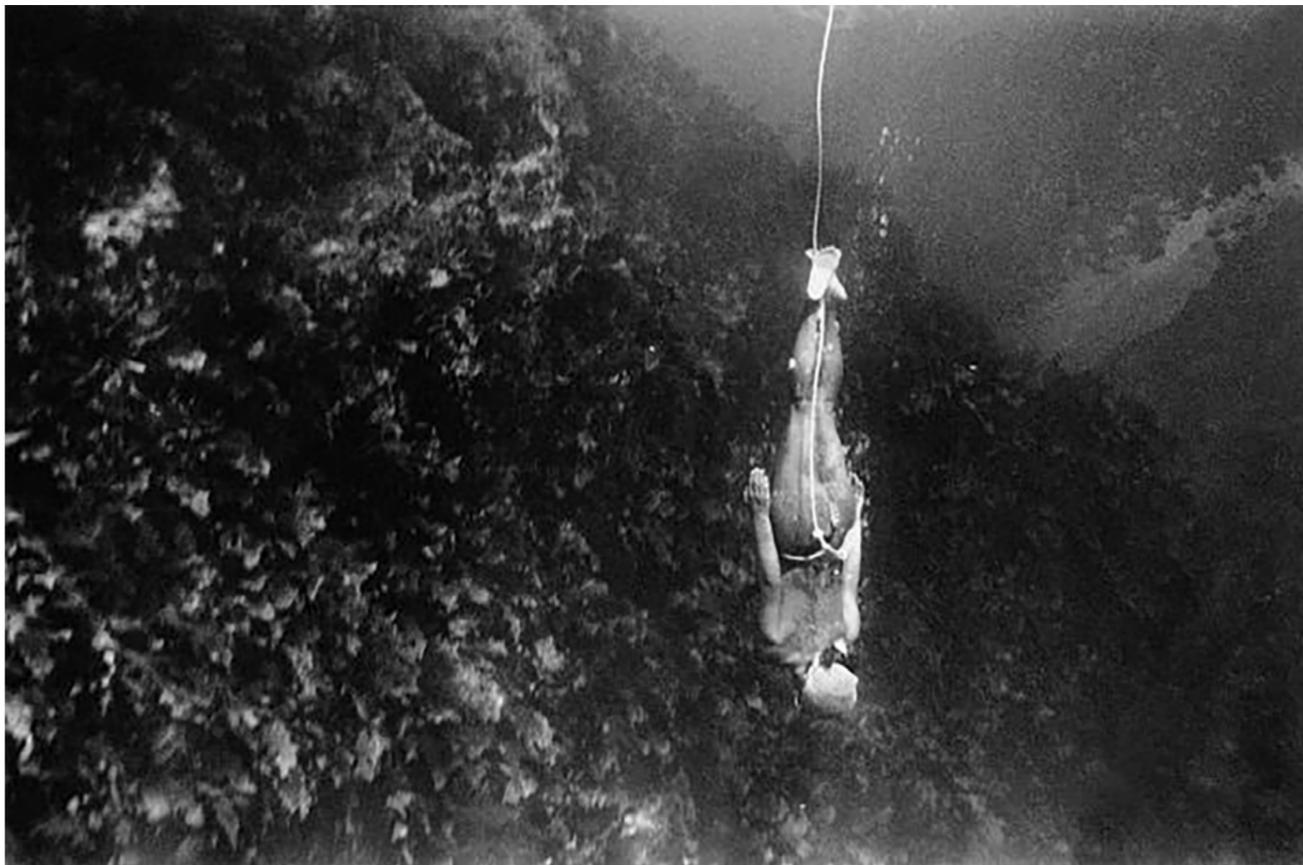
・オリバー・ジーバー ウェブサイト (英語)  
<http://os66.de/>



### 11 ASPHODEL

〒605-0085  
京都市東山区八坂新地末吉町99-10  
開館時間 12:00 ~ 20:00  
休館日 火曜日 (5月5日をのぞく)  
最大利用者数 約30名  
徒歩圏内の学校 (1) 開晴中学校 (2) 華頂女子中学校





## 12 海女の島：ルガノ文化博物館コレクション

本展はフォスコ・マライーニの「海女の島」を紹介し、1954年、能登半島の北に位置する<sup>へぐらじま みくりやじま</sup>舩倉島と御厨島で撮影したものです。手作りの水中カメラで撮影された素潜り漁を行う海女たちの姿は、無垢で大らかな美しさに満ち、海に囲まれた日本独特の自然主義的な概念を感じられます。若かりしフォスコ・マライーニが家族と過ごした京都の土地は、彼にとって特別な場所といえます。さらに今年は、京都市と彼の出身地であるフィレンツェ市が姉妹都市を提携して50周年という記念すべき年ということで、本展が実現しました。



『海女の島—舩倉島』(新版)  
2013年、未来社  
※初版は1964年発行

フォスコ・マライーニ  
Fosco Maraini



Courtesy Adriano Heitmann,  
©MCL Lugano

1912年、イタリア、フィレンツェ生まれ。人類学者、東洋学者、登山家、写真家など、様々な顔を持つ。1937年にチベット、1938年から1946年には日本に滞在し、様々な事象を写真と文章で記録した。その著作物は、世界に東洋を知らせる大切な資料となった。1941年から1943年には京都に住み、京都大学で教鞭を執っていた。2002年、日本写真協会賞受賞。2004年に他界。



ぎおんしんばしでんととうきけんぞうぶつ  
12 祇園新橋伝統的建造物  
(パスザバトン京都祇園店/ 2015年夏  
オープン予定)

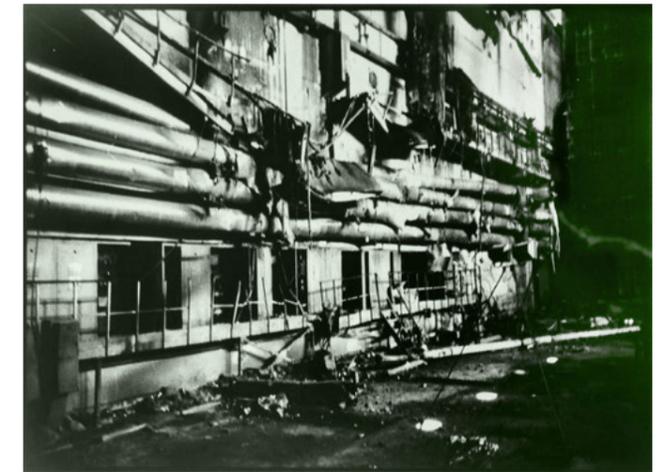
〒605-0085  
京都市東山区末吉町77-6、103-2  
開館時間 10:00 ~ 21:00 (最終入場は20:30まで)  
休館日 なし

最大利用者数 約30名  
徒歩圏内の学校 開晴中学校、華頂女子中学校

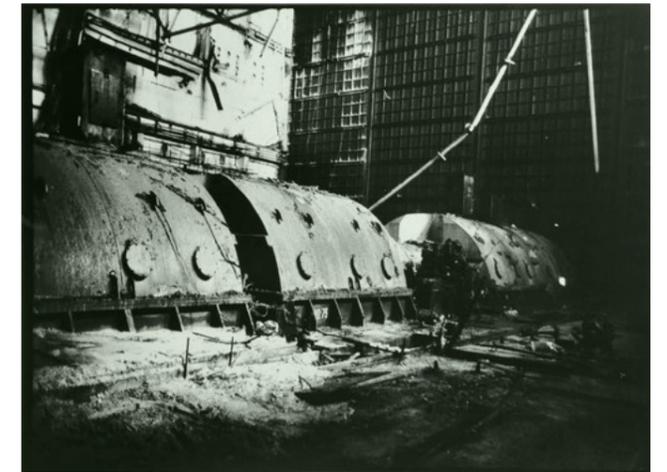




Child of Pripiat 1991 - Ukraine 1991- © Luis Jammes



The turbine hall #2-The reactor's sarcophagus - Tchernobyl - Ukraine 1991 - © Louis Jammes



The turbine hall #1-The reactor's sarcophagus - Tchernobyl - Ukraine 1991 - © Louis Jammes

## 13 チェルノブイリ

本展はルイ・ジャムの日本初個展です。ベルリンの壁やイラク、サラエボ、ガザ地区、エジプト等々、国際的な問題や紛争が起こる地を訪れ、シリアスなテーマに取り組んできた彼のシリーズの中から、原子力発電所事故の余波が続くチェルノブイリで撮影された作品を紹介します。ルイ・ジャムは悲劇の渦中にある人々の肖像を写し作品化することで、彼らの中にある尊厳や

美しさを描写しています。彼の作品の特徴ともいえる写真の文字や挿絵を描き込む手法は、元の写真に新たな意味合いを付加し、見る人に写された光景以上の何かを考えさせる力を持っています。

ルイ・ジャム  
Louis Jammes



ルイ・ジャム © Shawkan

1958年、フランス・カルカソン生まれ。1980年代に作品制作を開始したルイ・ジャムは、肖像写真にペイティングや文字を描きこむ独自の手法を確立した。アンディ・ウォーホルなど有名アーティストを写した作品から名を広げた。



・ルイ・ジャムの flickr のアカウント  
(ルイ・ジャムの作品が多数ご覧いただけます)  
<https://www.flickr.com/photos/125481534@N08/>



スフェラエキシビション  
13 SferaExhibition

〒605-0086  
京都市東山区縄手通り新橋上ル西側弁財天町17 スフェラ・ビル  
開館時間 11:00 ~ 19:00  
休館日 4月22日、5月7日

最大利用者数 約35名  
徒歩圏内の学校 (1) 華頂女子中学校 (2) 京都文教短期大学付属小学校 (3) 京都文教中学校





## 14 コンゴの紳士たち、「サプール」の美学

本展では、アフリカのコンゴ（コンゴ共和国とコンゴ民主共和国）で広がりを見せ、世界的に注目を集めるサプール（Sapeurs）をとらえたボードワン・ムアンダの作品を紹介します。サプールとは、「サップ」というファッションスタイルを楽しむ人々を意味します。サップ（SAP）は、日本語で「お洒落で優雅な紳士協会」などと訳される「Société des Ambianceurs et des Personnes Élégantes」というフランス語の頭文字をとった略語です。60年代パリの紳士を手本にしたエレガントでシャープなセンスだけが注目されがちですが、道徳や非暴力、言論の自由等々を尊重する精神が備わってはじめてサプールと認められる、コンゴという地域の特性も写真から読み取ることができるでしょう。

今回実現した日本初個展では、映像のプロジェクションとアフリカの音楽による展示が予定されています。

### ジェネレーション エリリ Génération Elili とは？

コンゴの人々が話すことばリンガラ語で「generation of the image（イメージの世代）」という意味。今から数年前、コンゴ共和国の首都・ブラザヴィルで、コンゴの現代芸術発展のために活動する若きアーティスト集団が発足。ボードワン・ムアンダは創立メンバーの1人である。

ボードワン・ムアンダ  
Baudouin Mouanda



ランコントルドバマコ

1981年、アフリカ、コンゴに生まれる。「Generation Elili」の創立メンバー。1993年に写真家として活動を開始。2009年、マリ共和国の首都バマコで2年に1回開催される「Rencontres de Bamako」というアフリカの写真家を集めるコンテストで新人賞を受賞し、世界各国の展覧会で紹介されてきた。



・Collectif Generation Elil ブログ（フランス語）  
<http://generationelili.com/blog/>



### 14 村上重ビル

〒600-8019  
京都市下京区西木屋町四条下ル船頭町194  
開館時間 11:00～20:00（5月10日のみ19:00まで）  
休館日 4月22日

最大利用者数 約60名  
徒歩圏内の学校 (1) 開晴中学校 (2) 高倉小学校  
(3) 洛央小学校



## 授業における活用の提案

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭は、授業や部活動など、学校教育における様々な場面で活用していただくことが可能です。当写真祭は、学年が始まったばかりの最も忙しい時期に開催いたしますが、子どもたちが1年間に学ぶ様々な事柄に関連づけることができる、多様な要素で構成されています。写真祭での体験が子どもたちの学びや発見の一助となるかもしれません。

図画工作の授業における鑑賞教育の題材として、社会における地域のくらしや幕末の侍たちの視覚資料として、様々な教科で活用することができます。

大小多様な異文化を発見し受け入れることから、国際的な諸問題に関する議論まで、実際に会場を訪問しなくても、資料としてこのキットを活用することもできます。

ここでは、我々が皆さんに提案する授業での活用方法を紹介します。皆さんのアイデアと工夫によって、より多彩な活用が生まれれば幸いです。

## 会場を訪問する前に

来場する人たちが皆が気持ちよく過ごすために、訪問の際には以下のことを事前にふりかえりましょう。

- 1 走ったり騒いだりしない**  
他のお客さんにぶつかったり、怪我をするかもしれません。
- 2 大声を出さない**  
節度ある態度で、思ったことや感じたことはどんどん共有しましょう。
- 3 壁や柱にもたれない**  
会場の壁は作品を展示するための大事な役割を果たします。
- 4 飲食はしない**  
大事な作品をきれいな状態で保つために気を配りましょう。
- 5 傘や大きな荷物は預けましょう**  
気をつけていても、大きな荷物は思いがけなく作品にあたってしまう可能性があります。

### 補足情報

- ・引率で来られた教員の皆さんは入場無料です。
- ・授業や部活動で来場した子どもたちにも割引制度があります。
- ・各アーティストの紹介コーナーには、会場地図や収容人数などを掲載しています。
- ・掲載の人数を大幅に超える団体による利用に関しては、担当者が相談に応じます。

上記の内容等ご質問がございましたら、4ページの問い合わせ先にご連絡ください。

## みんなのまわりの<sup>トライブ</sup>TRIBEについて考えてみよう！

当写真祭のテーマである「TRIBE」は、種族、部族、連中、仲間、群れ、家族... 様々な捉え方で、特定の集合体を指します。この言葉の意味を知るだけでも、作品を新たな価値観を持って鑑賞することに繋がるでしょう。人々の多様性を認めその本質について考える機会として、作品の鑑賞を前後に、次のような活動を行うこともできます。グループやクラス全体で行っていきましょう。

### 「TRIBE」とは？

まずは「TRIBE（部族・種族）」という言葉の意味について、知っていること、イメージすることを出し合ってみる。※種族や部族には、同じ出身や歴史的背景を持ち、共通の文化や言語、価値観の上で共同生活を営むとされる集団のことを指します。

### どんな「TRIBE」かな？

探し始める前に、ティーチャーズ・キットの作品画像を用いて、それぞれの写真がどんな「TRIBE」なのか話し合ってみましょう。

どのような特徴、思想、習慣をもって集まった集合体か発表してみましょう。

### あなたの周りにはどんな「TRIBE」がいるかな？

### あなたはどんな TRIBE に属しているかな？

家族？友達？部活動？町内？

アイデンティティを知ることにも繋がる活動です、一人になってじっくり考えてみましょう。

### 写真やスケッチでみんなに伝えよう！



## 作品を、みんなで喋りながら鑑賞しよう！

写真に写った景色や人、様々な要素をじっくり味わう方法の一つに、友達や先生と作品について喋りながら鑑賞する方法があります。当写真祭の展示作品を使って、対話をしながら鑑賞を深めてみましょう。特に写真を鑑賞することは、写真を撮った人の気持ちや、写された光景の意味、写った人や動物の表情から読み取れる感情など、日常や世界中で起こった事実を自分の中で思い起こしながら鑑賞できます。グループやクラス全体で複数人で意見を交換してみましょう。

まずは、作品をじっくり見ることから始めてみましょう。  
1～2分、距離や角度を変えて見てみます。



「何がうつっているかな？」と問いかけてみる。

「人、裸、ひげ、食べ物、フライパン、森、木、骨…」など、写っているものをどんどん出し合ひましょう。全員で共通の認識を図れるように、出てきた答えが写真のどの部分に写っているのか、確認も忘れずに行いましょう。

次に、「ここで何が起きているかな？」と問いかけてみる。

人や自然の様子をよく見て、その状況や感情について語ってみましょう。

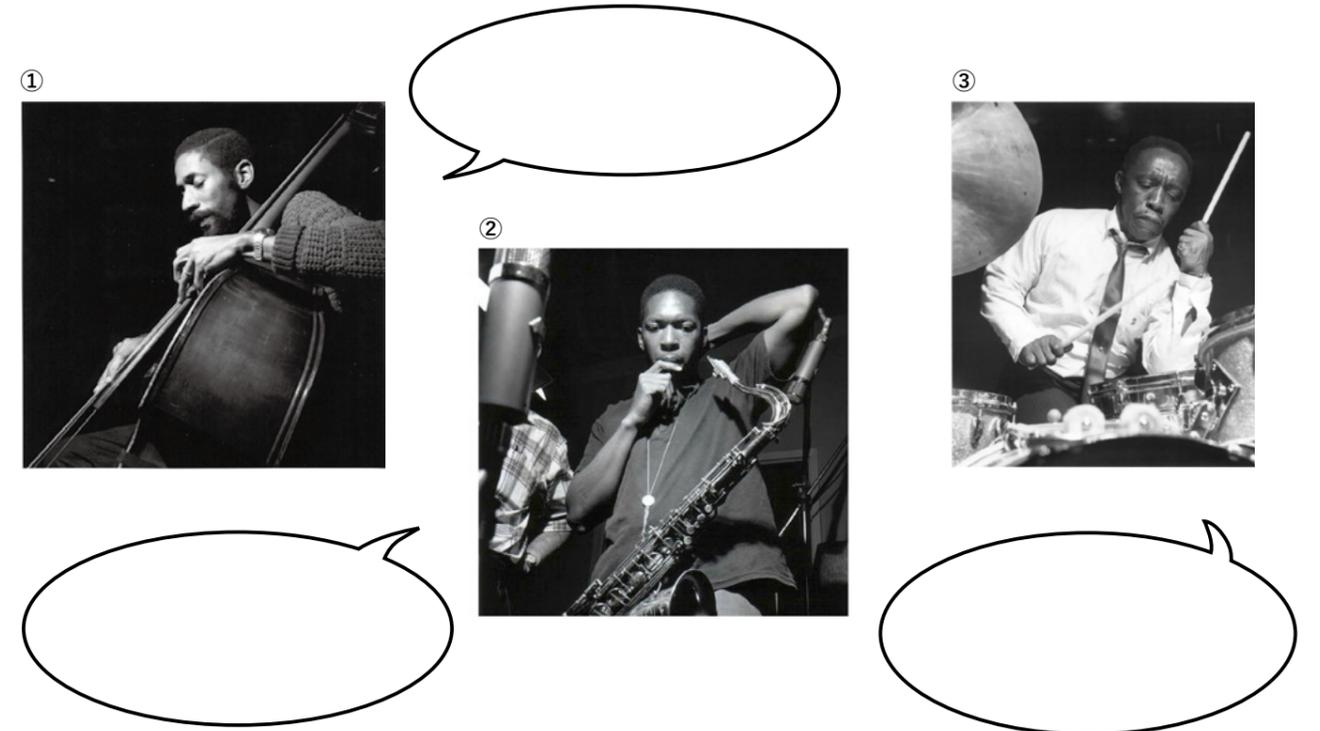
例えば、「森に原始人の生き残りがいた！」などの発言があった場合は、それが視覚的情報から得た根拠ある発言に導いてあげることが重要です。

「どんな様子が原始人なのか？」や、「じゃあこの人は何歳かな？」など、様々な質問が可能です。その発言に対する他の友達の意見も取り入れて、さらに対話を広げましょう。また、対話のテーマがひとつの事柄に集中しすぎないように、写真の色々な要素に目を向けましょう。

## 複数の写真で物語を作ってみよう！

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭が紹介する写真の多くは、写真家の作家活動を顧みる作品群や、ひとつの主題に基づいた一連のシリーズなど、複数の写真を一度に鑑賞することができ、一枚の作品を鑑賞した時には生まれなかった新しい鑑賞ができるかもしれません。

作品同士の共通点や景色の変化に気づくことで、展示のテーマや写真家が伝えようとしたことを、物語を読むように鑑賞できるでしょう。



三つの写真をじっくり見て、物語の背景を設定する

写真のモデルとなった人々の人間関係や、居る場所や環境について、生きる時代や習慣など、写真に写った要素で物語の背景を考えてみましょう。

三つの作品を繋げて、ストーリーを考える

1～3番の写真の流れに沿って、何が起ってどのように展開していったのか、自由に書き込んでみましょう。もしくは、1～3番の物語の流れではなく、3つの作品全体から読み取った物語を書き込んでみましょう。低～中学年には、吹き出しにセリフを書き込むことで、より楽しみながら参加できるかもしれません。

あなたのストーリーをみんなに共有してみよう

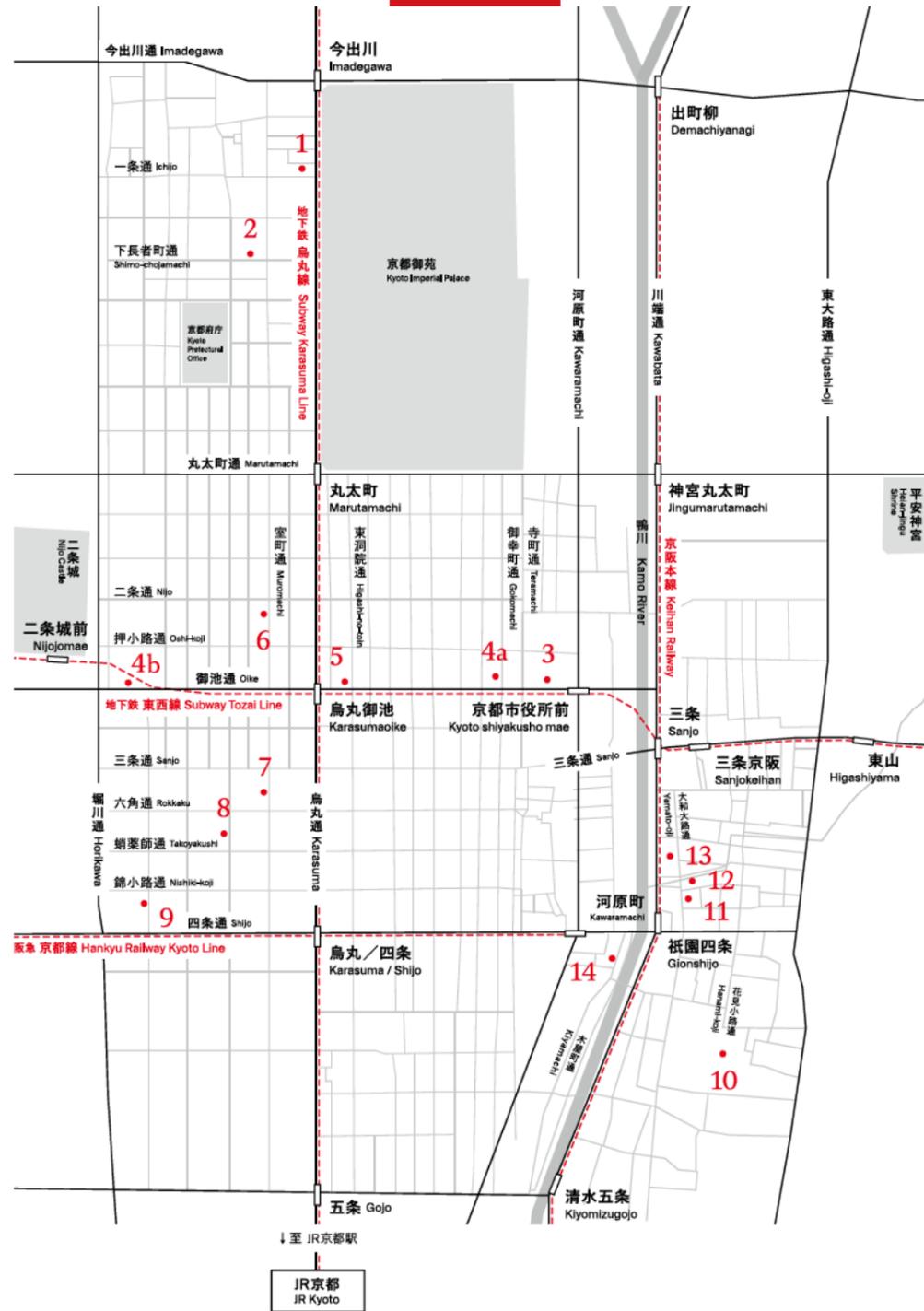
同じ作品を見ても、それをどのように見るかは人それぞれです。鑑賞活動に正解はありません。

作品の知識や鑑賞の仕方を知らなくても行える活動ですが、必要に応じて、作家情報や作品背景をこのキットで確かめてください。

みなさまのご来場、お待ちしております！

- ★本物の作品を目の前にすると、作品の歴史的背景や作家情報に関心を寄せがちです。しかし対話による鑑賞は、作品を視覚的に見る鑑賞の楽しみを失わないためにとっても有効です。
- ★対話による鑑賞を十分に行ったあとは、場合に応じて、作家や作品の情報を教えてあげることも関心を持たせる機会となります。その際は、アーティスト情報のページをご活用ください。

# 会場地図



## KYOTOGRAPHIE 2015 会場案内

- 1 虎屋 京都ギャラリー / TORAYA Kyoto Gallery
- 2 有斐斎 弘道館 / Yuuhisai Koudoukan
- 3 京都市役所前広場 / Kyoto City Hall open square
- 4a コムデギャルソン京都店 / COMME des GARÇONS Kyoto
- 4b 堀川御池ギャラリー / Horikawa Oike Gallery
- 5 嶋壺ギャラリー / SHIMADAI GALLERY KYOTO
- 6 ギャラリー素形 / Gallery SUGATA
- 7 菅田屋源兵衛 黒蔵 / Kondaya Genbei Kurogura

- 8 無名舎 / Mumeisha
- 9 花洛庵 (野口家住宅) / Karaku-an (Noguchi Residence)
- 10 両足院 (建仁寺内) / Ryosokuin (Kenninji temple)
- 11 アスフォーデル / ASPHODEL
- 12 祇園新橋伝統的建造物 (2015夏よりバスザバトン京都祇園店) / Traditional building in Gion Shinbashi (PASS THE BATON / Opemomg in Summer 2015)
- 13 スフェラエキシビジョン / SferaExhibition
- 14 村上重ビル / Murakamijyu Building

# スポンサー

## 協賛 / Sponsors

シャネル株式会社 / CHANEL K.K.

**CHANEL**

グッチジャパン / GUCCI JAPAN

**GUCCI**

ハースト婦人画報社 / Hearst Fujingaho Co., Ltd.

**HEARST | Fujingaho**  
ハースト婦人画報社

オムロン株式会社 / OMRON Corporation

**OMRON**

メルセデス・ベンツ日本株式会社  
Mercedes-Benz Japan Co., Ltd.

**Mercedes-Benz**

株式会社コムデギャルソン / COMME des GARÇONS, CO.,LTD

**COMME des GARÇONS**

アニエスベー / agnès b.

*agnès b.*

日本写真印刷株式会社  
Nissha Printing Co., Ltd.

**NISSHA**

大日本印刷株式会社  
Dai Nippon Printing Co., Ltd.

**DNP**

株式会社東京カラー工業  
Tokyo Color Kogasha

**Tokyo Color Kogasha +CK**

株式会社フレームマン  
Frameman Co., Ltd.

**frame-man**

ハッセルブラッド・ジャパン株式会社  
Hasselblad Japan K.K.

**H HASSELBLAD**

株式会社ニコンイメージングジャパン  
Nikon Imaging Japan Inc.

**Nikon**

株式会社エスディーヴィー・ジャパン K.K.  
SDV Japan

**SDV**  
Logistics. Imagination

ユニバーサルミュージック合同会社  
UNIVERSAL MUSIC LLC

**UNIVERSAL**  
UNIVERSAL MUSIC

ネスレネスプレッソ株式会社  
Nestle Nespresso K.K.

**NESPRESSO**

プチバトー  
PETIT BATEAU

**PETIT BATEAU**

法善文化  
Dharma Joy

**Dharma Joy**

ハーネミュレ  
Hahnemühle

**Hahnemühle**

株式会社資生堂  
Shiseido Co., Ltd.

**SHISEIDO**

特別協力 / Special partner

シャネル・ネクサス・ホール  
CHANEL NEXUS HALL

**CHANEL NEXUS HALL**

アル国際写真フェスティバル  
Les Rencontres d'Arles

**LES RENCONTRES D'ARLES PHOTOGRAPHIE**

フランス国立ギメ東洋美術館  
Gulmet National Museum of Asian Arts

**mnaag**

International Center of Photography

**International Center of Photography**

フランス国立造形芸術センター (CNAP)  
Centre national des arts plastiques (CNAP)

**Centre national des arts plastiques**

ギャラリーデュジュールアニエスベー  
galerie du jour agnès b.

**galerie du jour agnès b.**

三影堂撮影芸術中心  
Three Shadows Photography Art Center 三影堂 攝影艺术中心

**Three Shadows Photography Art Center**

助成 / Grants

イタリア文化会館大阪  
Istituto Italiano di Cultura di Osaka

**ISTITUTO ITALIANO DI CULTURA DI OSAKA**

アンステイチュ・フランセパリ本部  
Institut français

**INSTITUT FRANÇAIS**

文化庁  
Agency for Cultural Affairs Government of Japan

**文化庁**

公益財団法人朝日新聞文化財団  
THE ASAHI SHINBUN FOUNDATION

**THE ASAHI SHINBUN FOUNDATION**

公益財団法人企業メセナ協議会  
Association for Corporate Support of the Arts

**Association for Corporate Support of the Arts**

公益財団法人 信頼資本財団  
TRUST CAPITAL Foundation

**TRUST CAPITAL Foundation**

## 後援 / Supports

京都府  
Kyoto prefecture

**京都府**

フランス大使館  
Embassy of France in Japan

**Embassy of France in Japan**

在大阪イタリア総領事館  
Consolato Generale d'Italia Osaka

**Consolato Generale d'Italia Osaka**

日本芸術写真協会  
Fine-Art Photography Association

**FAPA**  
Fine-Art Photography Association

公益社団法人日本写真協会  
The Photographic Society of Japan

**The Photographic Society of Japan**

共催 / Co-organizer

京都市  
Kyoto city

**京都市**

京都市教育委員会  
Kyoto City Board of Education

**京都市教育委員会**

**KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2015**

**ティーチャーズ・キット**

執筆・編集 朴鈴子

編集補助 鈴木秀法

デザイン・挿絵 千葉由希子

©KYOTOGRAPHIE 2015

**KYOTOGRAPHIE International Photography Festival 2015**

**TEACHER'S KIT**

Writer & Editor Young-Ja PARK

Editorial Assistant Hidenori SUZUKI

Designer & Illustrator Yukiko CHIBA

©KYOTOGRAPHIE 2015